

左京区保護司会長 様

平成 30 年 7 月 14 日

地区名 (岡崎・吉田・聖護院) 地域幹事氏名 (齊藤靖子・鈴木美智子)

地域研修会開催報告書

開催年月日	平成 30 年 7 月 3 日 19 時 00 分～20 時 30 分		
開催会場	京都市立錦林小学校 ふれあいサロン		
出席者	保護司名	鞍谷秀郎・村上ますみ・川見善孝・橋本周現・ 齊藤靖子・市川悦子・鈴木美智子	合計 11 名
	関係団体名 とその人数	錦林小学校 近藤校長先生 錦林小学校 PTA 2 名 左京南更生保護女性会 1 名	内保護司 7 名
テーマ	“少年鑑別所から見たこどもたち”		
研修内容 ・集会活動	<p>京都少年鑑別所 所長 渡邊悟氏を講師にお迎えして上記テーマで講演会を開催した。</p> <p>まず少年鑑別所の業務として、鑑別・観護処遇・地域援助があることと、その詳しい内容についてお話いただいた。</p> <p>鑑別のうち鑑別面接では、少年の心情に寄り添い自分の問題に自分で気づくように話を聞き、行動観察では所内生活の様々な場面の観察をしている。面会時の様子を見ていると、放任の親・過保護の親、どちらもこどもと向き合っていないと感じられる。心理検査では発達障害が疑われる少年が増えているとのことであった。</p> <p>観護処遇では、少年鑑別所での生活について規則正しい生活リズムを取り戻させることが大事であり、学習支援や就労支援、京都新聞の記者による新聞の読み方講座も開いたりした。</p> <p>地域援助については法務少年支援センター京都（かもがわ教育相談室）として個人向け・学校や機関向け・団体向けの様々な相談や研修、講演、法教育などがあることを紹介していただいた。</p> <p>渡邊所長の私見として、最近の非行少年をつっぱりタイプ・おちゃらけタイプ・我関せずタイプに分類されていたが、共通するのは自己評価が低く自信がないこと、人に対する信頼感が薄いこと、漠然とした満たされない思いを抱えていることである。総じて人との関係性の貧しさが背景にあり、それを癒し回復するのも人と人とのつながりしかない。</p> <p>近藤校長からも、課題を抱えているこどもは問題行動に理由があること、こどもたちの目線で考え、声なき声を聴くことが大事であるとのお話をしていただいた。参加者一人一人のご意見もお聞きし、少人数ならではの距離感で話し合うことができた。</p>		

<p>・拠点啓発活動</p>	<p>平成 30 年 7 月 11 日 7 時 40 分～8 時 40 分 錦林小学校校門前にて児童にティッシュを配布。 社明くんの周りに大勢の児童が集まり、大人気であった。</p> <p>参加保護司： 川見善孝・橋本周現・齊藤靖子・鈴木美智子</p>
----------------	--